

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「学部・学科選択に悩む生徒に、どのような声掛けや指導を行っていますか」

▶生徒自身に考えさせ、選び方をアドバイスする

各学年とも夏休み前に大学等へ行かせて学部の研究をするよう促しています。ホームページや進学情報誌なども参考に自分で調べて考えさせています。

1年生の2月頃から学部・学科を考えるよう指導していますが、大学や学部の内容を知ることなく、選択する生徒も見られます。大学とは何か、大学での学びとは何かをしっかりと伝える必要があると思います。

現在は、学ぶ内容が学部名だけではわかりにくくなっている。2年生のときに具体的な大学の学部・学科の内容を調べさせ、生徒の思い込みを取り除いたうえで、関連する学部・学科も選択肢に入れて検討させている。

2年生9月に、適性検査の結果を見て、「興味がない」ものを選択肢から外しながら、志向を探っていく。それでも志望学部が絞れない生徒には、教員からいくつかの学部を提示する。

▶学部・学科選択後も幅広い学習を促す

2年生のうちに学部・学科を選択させるが、幅広く学ぶ重要性を伝え、なるべく科目を絞りこまないように指導している。そのため、志望が変わった場合でも、柔軟に対応できる。

学部・学科を早く決めさせることのメリットはあまりないと考えている。選択の範囲を狭めずに学習させることで、小論文や面接の対策にもつながっていく。生徒はこうした回り道を嫌うが、大学生になった卒業生からは、幅広く科目選択したことを好意的に受け止められている。

▶大学卒業後の進路希望に関連付けて考える

普段の会話の中で、生徒の興味関心、得意なことなどを聞く中で、それがこういう分野の仕事につながるよと、文理選択・学部選択について話をするようにしている。

夏休み中に自分の関心のある職業について調べ学習をさせ、その仕事につくにはどんな学部に進んだらいいかを考えるように仕向けています。

大学卒業後のやりたいことを決めれば、逆に選択肢は広がる。先に学部・学科を決めてしまうと、先細りになるので、なるべく先の目標（希望）を持たせるようにし、それを実現するためには、どの学部に行くのがベストなのかを一緒に考えている。

▶大学で学びたい内容を重視して学部・学科を選ぶ

文系・理系とも、面談を通して興味関心のある分野に気づかせるのが基本指導です。文系の生徒には、必ずしも将来の職業に対する展望がなくとも良いと伝え、楽にしてあげるようにしています。

高校1年生から高校2年生にかけて、継続的に学部・学科調べ等をさせていく。その際、まずは自分が何が一番興味があるかで学部・学科を考えさせる。次には将来の夢から。なかなか学部・学科が定まらない生徒に対しては、系統別出前講義やオープンキャンパスなどへの参加、ガイドラインの「注目の学部・学科」のバックナンバーを読ませるなど、さまざまな働きかけを継続的にする。それでも決まらない生徒には、最終的に教科のバランスで考えさせることもある。

仕事、将来といった先を見据えた決定を求めがちですが、そこまで最近の生徒に要求するのは厳しいものがあります。進路希望調査を取るとほとんどの生徒が記入しますが、実際には何がしたいのか、将来どうしたいのか決めかねている生徒がほとんどで、こちらが情報提供すれば決まるといった段階でもないようです。そのような生徒には、「当面、自分が嫌でない分野の学部を見つけて、そのなかでも好きかもしれないと思えるものを志望先にしよう」と声をかけ、肩の荷を下ろさせます。大学を卒業する時に何をやりたいかが決まっていればよいとしたほうが、生徒によっては動きやすいのかもしれませんが。